

二〇二三年四月一日

算木積仰ぐ天辺花万朶
観覧車てつぺん越えて花吹雪
ハイウエイ花の絵巻を通過中
花筏汐入川を遡る
花万朶双子の眠るベビーカー
城壁に逆さ地蔵や花ふぶく
春泥を踏んづけてゆく喧嘩かな

二〇二三年三月三十一日

母逝きて父に桜の誕生日
暮れなずむ花堤より子等の声
紋幕の崩しクルスや春風裡
漆黒の海煌めかせ螢鳥賊
初蝶来ジャングルジムをくぐり抜け
花を愛ぶ余命一年てふ友と
目の前の桜の枝とハイタッチ
菜の花や木偶人形の太き眉
錫杖の音に振りむく春野かな

二〇二三年三月三〇日

雁木降りきて春水に菜を洗ふ
竹生島間遠に見えて月朧
土筆摘む季節を少し頂きぬ
春塵や仁王の彫りの影深く
地引き網大ジャンプすは桜鯛
座礁船ねぐらとしたる夕つばめ

二〇二三年三月二十九日

春大根摺れば背の子笑ひけり
花びらをめくる風あり紫木蓮

明日香
智恵子
うつき
せつ子
豊実
明日香
ひのと

あひる
満天
うつき
凡士
ひのと
せいじ
ぼんこ
千鶴
素秀

うつき
宏虎
はく子
明日香
智恵子
ひのと

ひのと
せいじ

栈橋は板一枚や鳥帰る
宮うらら持ち綱掛かる力石
葉隠れに深山蓮花の太蕾

二〇二三年三月二十八日

海見えてあとほゆるゆる桜坂
ふらここの膝に小犬を抱いてをり
からくりの五時ををどりし遅日かな
三人にガイド五人や山笑ふ
燕来る老舗パン屋の軒端かな
一雨で花駆け昇る生駒山

二〇二三年三月二十七日

席取りに置かるる本やうそ寒し
句帳持ち孫と野路行く春休み
軽やかにミシン踏む音春の昼
お神籤をちひさく畳む梅の下
クツキーもたまごのかたちイースター

二〇二三年三月二十六日

砂吐いて蜷の口の一文宇
追ひかけて春の帽子を子に渡す
火渡りの焦げし丸太のほのぬくし
回覧板届けし軒に初燕
咲き初むる桜の下の肩ぐるま
美容師のはさみに委ね目借時

ひのと
うつき
董雨

もとこ
なつき
凡士
うつき
宏虎
あられ

なつき
せつ子
むべ
ひのと
あひる

宏虎
ひのと
千鶴
董雨
智恵子
ぼんこ

毎日句会みのる選・二〇二三年四月三日